

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あんしん・のどか」を掲げ、地域や家族との交流を維持しつつ、利用者様が第二の我が家として生活できるように心がけている。	事業所の名前のもとにもなっている「あんしん・のどか」という分かりやすく、短い中にしっかりと考えを入れた事業所の理念が職員で話し合いの上作られています。各ユニットの目に付くところに掲示してあるとともに、理念の達成のための目標として、実現のために具体的に落とし込まれています。	調査時点では、定期的に理念を振り返る機会がありませんでした。定期的に理念を確認し、職員間で浸透できるようにされることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の活動の中で地域の方々へ積極的に挨拶を行い、納涼祭などのイベントの際には自治会等に働きかけ参加いただいている。また、地域の学校(幼稚園・小学校)とは慰問やボランティアなどにより交流をはかっている。	地域の祭りの際に神楽に寄ってもらうことや、納涼祭はポスティングにて地域にお知らせし、地域の小学生を招待するなどの行事を通しての交流の他、日常的に個人とのつながりを持ち、畑で収穫したものを差し入れしてもらうなどの関係が作られています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	慰問・ボランティアを積極的に受け入れ、開けた事業所として認知症の人たちの理解を得てもらおうようにしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会・地域の方々・地域包括支援センター・利用者・利用者家族などにメンバーに入っただき、様々な意見を聞く事によりサービス向上に努めている。	事業所からの報告に加え、地域包括からの専門的な助言や地域住民からの行事の情報などをもらい、サービスの向上に活かされています。	昨年度の運営推進会議の開催は2回のみとなってしまいました。年間6回の開催ができるように計画的に進められることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは月1回は空室状況などの情報交換を行っていますし、連絡事項があれば随時連絡いただいております、事業所側はわからない点があれば随時確認している。	市の担当者とは頻繁に行き来があり、話し合いの場が持たれているとともに、地域のグループホームの空き情報をメールでやり取りするなどの情報交換も行われています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員一丸となって身体拘束しないケアを心がけている。	全体会議の場などを活用し、介護保険法における身体拘束や、ご利用者の行動を制限しないケアについての話し合いが行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員で問題を共有して利用者の気持ちになって対応し、虐待が絶対に起きないように努めている。	会議にて、管理者と介護支援専門員が指導し、ケース検討を含め学ぶ機会を設け、職員への周知がされており、ご利用者の気持ちを尊重した支援が行われています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・介護支援専門員が率先して学び、市町村などにも相談して、利用者を守るために可能なサービスはしっかり検討し活用している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解除時などは管理者より利用者家族へ直接説明し、理解していただいた上で署名・捺印してもらうようにしていますし、それ以外でも不安や疑問の訴えあれば随時説明している。状況に応じては介護支援専門員・介護員も同席して対応しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・利用者家族とのコミュニケーションをはかるようにしており、意見・要望が出た場合は事業所内・法人本部と協議して運営に反映させている。	意見箱の設置の他、日常的にご家族が意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行い、直接言ってもらえる関係が作られています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各種会議・日々のコミュニケーションの中で職員の意見や提案を受入れやすい環境作りを心がけ、職員からの意見・提案については事業所内・法人本部と協議して運営に反映させている。	月に1度、職員会議が行われ、意見や提案も運営に反映されています。また、職員からの希望休は月に2回はかなえるように対応しています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成21年度より賞与の際の査定(自己評価など)を導入してみたり、夜勤手当のアップ・資格手当・役職手当の導入など賃金面での改善をはったり、職員の増員・会議時間の工夫などにて職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護技術については、管理者・リーダーを中心に指導・研修等により向上に努めていますし、ケアプラン等については介護支援専門員を中心に指導・研修を行い知識・技術向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム管理者及び介護支援専門員が定期的に集まり情報交換会を実施していますし、他職場研修として市内他グループホームへ体験研修を行っています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時のアセスメント・カンファレンス等を通して本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に家族ともしっかり話し合い、家族の意見・要望を傾聴して、良好な関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族としっかり話し合い、生活を支える上で必要なサービスを優先して提供しています。その他のサービスについても話し合い、時には提案して質の向上に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活・自立支援・残存機能の活用・生活の中でのリハビリ等を意識して、利用者・職員関係無く助け合い生活するということを意識して行動しています。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、離れていても一緒に介護しているのだという意識を持ち続けてもらい、とにかく利用者に顔を見せてあげて欲しいと積極的な面会をお願いしています。	ご家族の心身の状況を把握した上で、ご家族と事業所の役割分担を明確にし、ご家族に協力を求めています。また、電話連絡を頻繁に行い、ご家族が事業所へ来所してもらえるよう働きかけが行われています。	ご家族への定期的な情報提供やご家族会の立ち上げなど事業所のできることを職員と検討していただけることを期待します。
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開けた事業所として、友人・親戚の人等の面会も自由にしておりまして、ドライブ等を通してなじみにしていた場所に行ったりしています。	地域の市や瓢湖、お墓参りなどご利用者の馴染みがある場所にドライブに出かけるなどの支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	団体生活なので気の合う人合わない人がいらっしゃいますが、職員が仲介に入り孤立しないように支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族等から相談・問い合わせがあれば対応しますし、利用終了後は利用者家族から地域住民として山菜を頂いたり良好な関係が保たれています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者の希望・意向に耳を傾け、関係者で話し合い情報を共有して、利用者の思いに添えて上げられるよう行動しています。	利用開始時のアセスメントに加え、日々のケアにおけるコミュニケーションや行動から得た情報を記録し、情報の蓄積と職員間で共有が行われています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず利用開始時に本人・家族から可能な限り聞き取るようにしていますし、日々の生活の中で知れた新しい情報に対しても反映するように心がけています。	ご本人やご本人が答えられない場合はご家族などから、利用開始前に情報を収集し、ある程度の把握を行った上で、日常の会話の中から得た情報は個人のファイルに蓄積がされています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し、申し送りで職員へ周知して、異常の早期発見などに努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心として、まずユニット・事業所内部で話し合い、さらに家族・関係者に参加してもらい現状に即した介護計画を作るように努力しています。	ご本人・ご家族の要望を踏まえホームでの生活に慣れるための暫定プランを作成し、実際にケアを行った上で、ユニット会議にて職員の意見を踏まえてプランの修正・決定が行われています。全職員の日常の記録をもとに、月に1回、居室担当がモニタリングを行ったものを踏まえ、3ヶ月に1回見直しが行われています。また、状態変化による随時の変更も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は情報共有の重要なツールとなっており、記録を基に介護計画の見直しなどを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法律の中で許される範囲で、事業所で可能なサービスは取り入れるようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源・地域イベント等には積極的に参加して利用者の気分転換等に役立っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入所前のかかりつけ医に継続してかかっており、入所してもアドバイスいただけるような関係を維持している。かかりつけ医がない場合や受診に連れて行くことが困難な場合は協力関係にある医師を紹介して往診してもらっている。	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医での受診を基本とし、ご家族を介して口頭や書面、医師への電話連絡などにより情報交換が行われています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療面については、看護師に相談して対応するようにしていますし、医療に関する研修については講師的な立場で指導・助言してもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・介護支援専門員が中心となり、病院の医師・看護師・ワーカーとの情報交換を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて、早い段階から本人・家族と話し合いをしているケースはまだ無い。今回、余命残り少ないと診断され、家族の希望でギリギリまでここでの生活を希望されたが、緩和ケア(医療面)を対応する病院の件もあり、今後の検討材料である。	契約時に事業所としての方針の説明とご家族の意向の把握が行われており、医療的なケアが必要であればできるだけ支援していきたいと考えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習・応急手当等の講習を避難訓練時等に実施している。	消防署より高齢者の事故や疾病に関する勉強会が行われており、前回の課題であった救命救急講習の受講もされておりました。	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	理事長・法人本部・管理者で災害を想定した話し合いを行っており、職員にも随時、指導している。	半年に1回の避難訓練の実施や隣接のケアハウスとの災害時の協力体制の確立が行われています。	訓練時の地域の方の参加や、地震・水害等の訓練はまだありません。早期に事業所内で検討されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所自体はユニット・個室での生活となっており、プライバシーに配慮した作りとなっている。職員に言葉かけについては親しみをもちつつ、誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけや対応している。	規定に基づいた個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応など、職員会議にて周知徹底は図られています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言える様な環境を作るように努力し、職員には利用者の話をゆっくり聴いて上げられるよう余裕を持てるようにと指導し、職員も配置している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員へは、利用者一人ひとりペースは違うことをしっかり説明して、利用者の立場になって支援するように指導している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者も多く、女性職員が中心となって身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際に利用者の好みを反映するようにしていますし、季節の食材が入った時には内容を一部変更して、利用者が季節を感じられる料理にしている。利用者にも毎日調理・準備・片付けをしてもらっている。	ご利用者の希望や状態に応じて準備や片付けを職員とともにしており、食材の買い物もご利用者と一緒に出かけます。外食の機会も月に1回程度設けており、ご利用者に食事を楽しんでもらえるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、給食委員がチェックしており、必要に応じて栄養士などの助言をもらう。食事量・水分補給量については、チェックして必要な水分・栄養が摂れるように支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけだけですむ人もいれば全部介助しなければならない人もいますが、毎食後に職員が誘導・介助して口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状況・サイクルを把握して、職員声掛け合って、トイレ誘導・トイレ介助を行い、便器を使って自然に排泄ができるように支援している。	排泄チェックによる排泄パターンや仕草を職員間で共有し、トイレ誘導が行われています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫、体操、水分摂取など便秘の要因・改善策を話し合い、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人に確認して、可能な限り希望に沿った入浴ができるように支援している。	基本的な入浴日と入浴時間は決められていますが、体調や希望に応じて柔軟な対応がとられています。また、入浴を嫌がられる方に対しては、無理強いをせず、タイミングや声かけの方法を職員で連携して対応がとられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分の寝間着に着替え、一人ひとりの習慣に合わせて就寝誘導して、安心して眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用開始時に薬についての情報は職員へ周知し、薬が変更になった場合は職員へ申し送る。薬についての情報は薬と一緒に袋に入れており、いつでも見れるようになっていますし、個人のケースファイルにも綴っており閲覧できるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみごとを把握して、利用者に寄り添い、一緒に楽しむような形で支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭木の水遣りや散歩など日課になっている利用者もあり、職員が同行して自由に出れるようにしている。普段行けないような場所については、ドライブなどで出かけたり、難しい要望の場合は家族へお願いする。	少人数での日常的な散歩や買い物に加え、定期的に外食や花見などのイベントを企画し、あまり外出をしたがらないご利用者も戸外に出るよう支援が行われています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては個人でお金をもっている人もいるが、基本的には事務で預っており、必要な場合は一緒に買物に行き対応している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は自由にやり取りできるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は木造で落ち着いた雰囲気です。音・色など配慮している。窓の開閉などをして自然の風・匂いを感じられるようにしている。さらに季節を感じやすいように飾りつけなどにて工夫している。	全体的に木目を基調とした温かみのある空間となっています。ご利用者の作品などが程よく装飾され、居心地よく生活できるスペースとなっています。また、ご利用者の意見を反映して扉の開閉音を防ぐよう、防音用シールを貼るといった決め細やかな配慮が行われています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席・畳スペース・ソファと何パターンかの休める場所を用意しており、利用者は思い思いの場所に座られる。自分で座れない人は職員が声かけ誘導している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の説明の際に本人・家族に使い慣れたものや好みのものを持ってきてかまわないと説明しており、皆さん自分の好みにあった部屋にしている。	ご利用者が「自宅の部屋」のように過ごせるよう、プライバシーに対する配慮や、使い慣れた物を持ち込んでもらうよう働きかけ、居心地よく過ごせる工夫が行われています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に自由に事業所内行ったり着たりできるようにしており、職員の見守りの中で安全で自立した生活が送れるようになっている。		